

琉大病院

University of the Ryukyus Hospital

健康と元気のある
社会をめざして



HOTLINE

令和元年 6月 28日
発行
附属病院広報委員会

皆様の情報誌です。ぜひ、ご家庭にお持ち帰りください。<http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/>



巻頭の挨拶

「病院長就任に際して」

平成の最後の年である平成31年（2019年）4月1日より琉大病院の病院長となりました第三内科教授の大屋です。循環器、腎臓、高血圧、脳神経、脳卒中などの分野の内科を担当していました。また、この4年間は藤田次郎前病院長のもと、副院長として病院管理の勉強をさせていただきました。さらに、直近の2年間は、医療安全管理責任者および安全管理対策室長として、さまざまな医療職、また、事務部と、琉大病院の安心安全の医療を促進する取り組みを行ってきました。琉大病院は、沖縄県唯一の特定機能病院です。特定機能病院は通常の治療では直すことができなかった病気などに対して、最新の医療、高度な医療を行うこと、また、それを開発すること、また、それらを行う人材を育成する病院のことです。私たち琉大病院は、沖縄県民や沖縄の医療界にとって、「最後の砦」として機能することを求められています。「県外に行かなくても、沖縄県の中で必要な医療を受けることができる」とこと、これが琉大病院設立時からの沖縄県民の期待です。とくに、この10年間は、最新の技術や機器の導入も進み、全国の大学病院に負けないような実績が積み上がってきています。沖縄県民のこのような期待に添うために、琉大病院の職員は、継続して、研鑽を積み、医療に対する知識や技能を磨くだけでなく、医療安全を最優先に、患者さんやそのご家族の皆さんにとり安心で信頼されるような医療を目指しています。

さて、6年後（令和6年度：2024年度）に琉球大学医学部と附属病院は、西普天間住宅地区に移転します。この計画は、跡地再開発計画のモデルケースとして、県内のみならず全国からも注目されています。そこでは、琉大病院はこれまでの、沖縄県民の健康を守るというミッションをより確実に実行するのみならず、未来型の医療の実現や開発を目指すこと、沖縄やアジアに根ざした医学研究を行い、医療イノベーションを推進することで、“国際性・離島の特性を踏まえた沖縄健康医療拠点”形成の中心施設となることを目指しています。病院長として、この計画を進めるにあたって責務も担うことになりました。たいへん荷が重いことですが、この計画が、沖縄発展の新しいエンジンとなれるように、沖縄県民の誇りとなるような施設になれるように、医学部・附属病院が一丸となって、これから約6年間を準備したいと思いますので、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

大屋 祐輔

病院長

重症大動脈弁狭窄症治療の

新たな選択肢、「TAVI（タビ）」

特集 1

永野 貴昭 第二外科 診療講師

大動脈弁狭窄症(AS)は大動脈弁の開放が制限される病態で、原因は、リウマチ性、先天性、炎症や放射線障害によるもの、加齢による動脈硬化性変化によるものなどです。重症 AS の自然経過(内服加療含む)は不良で、狭心症状を伴う場合は生命予後 5 年、失神をともなう場合は 3 年、心不全を伴う場合は 2 年といわれています。以前は開胸による大動脈弁置換術が唯一の治療法でしたが、加齢による動脈硬化性が病因のほとんどである現在では、症状出現は 80 歳頃と高齢で、身体の脆弱性や合併疾患のために開胸手術不能例、ハイリスクな患者さんが少なからず存在します。このような患者さんに対して、開胸せずにカテーテルを用いて大動脈弁位に生体弁を留置する治療法が経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI：タビ)です。重症 AS に対する体に負担の少ない低侵襲治療である TAVI は、本邦でも 2013 年 10 月からエドワーズ社の Sapien Valve®(バルーン拡張型)が認可され、本年 5 月には全国 163 施設で、累計症例数が 15,000 例を超える状況です。当院でも 2015 年 8 月 1 日、沖縄県初の TAVI 認定施設として登録され、同月 12 日当施設ハートチーム(責任医師 國吉幸男 第二外科教授、第三内科 岩淵成志、第二外科 永野貴昭)で TAVI 開始し、現在まで 143 例施行しました。その早期治療成績ですが、患者さんの内訳は、男性 49 例、女性 94 例で、平均年齢 86.0 ± 4.7 歳(79-97 歳)と超高齢者でした。他府県の TAVI 認定主要施設に比べて高齢かつ重症度・脆弱性の高い状況でしたが、周術期死亡はなく、自宅退院率も 80 %と良好な成績でした。平均手技時間も 90 ± 36 分で、手技に熟練した最近では 30 分前後まで短縮しており、患者さんへの負担もかなり軽減されています。特記すべきこととしては、他施設からご紹介いただいた患者さんの中には、消化管手術・骨折手術の術前精査で、重症 AS を診断され、全身麻酔・手術ハイリスクのため、先行治療としての TAVI も行われるようになりました。2018 年度からはメドトロニック社の CoreValve Evolut®(自己拡張型)も使用開始し、これまで TAVI 適応外であった患者さんにも治療適用可能となっています。

このようにハイリスク AS 患者に対する TAVI は、新たな治療選択肢として本邦でも確立されつつあります。本治療実施には患者背景に沿った適正な術式選択が肝要で、また術後長期のフォローが必要なもの、本術式は患者の術後 QOL を維持可能で、有効な代替治療と考えられ、デバイスの進化とともに更なる適応拡大が期待されます。

この TAVI に関するご連絡ご質問は、医療情報提供書を、第三内科岩淵成志あるいは第二外科永野貴昭宛で、本院医療福祉支援センター(シント) 098-895-1371、FAX: 098-895-1498 へお願いします。

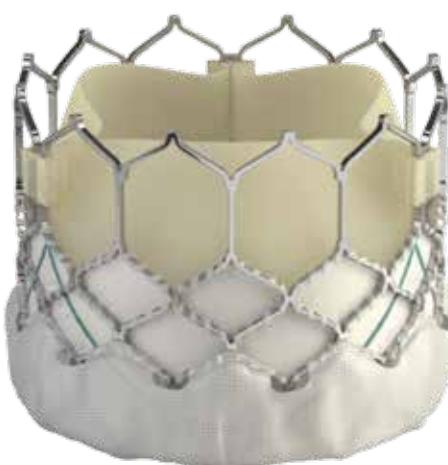


図 1 : バルーン拡張型



図 2 : 自己拡張型



中西 浩一

小児科 教授

「小児科医は子どもたちの総合医」

「小児科医」と聞くと皆さんはどういうイメージをお持ちでしょうか。「子どものお医者さん」「子どものことは何でも」「子どもっぽい」「子ども好き」そんな感じでしょうか。いずれもそのとおりです。日本小児科学会のホームページには、「小児科医は子どもたちの総合医です」と謳われています。小児科医は、まずは心を含め全身を診る総合医的能力が求められ、当科では全員がそれを心がけ日々の診療に従事しています。子どもと大人の違いは発達の有無です。身体はもちろんのこと、精神的にも社会的にも発達に配慮して、丁寧に対応していくことを実践しています。

一方、小児科の特徴は多くの専門分野を担当することです。当科にも多くの専門分野がありそれぞれの分野に配慮し、患者さんとその家族のことを一番に考えきめ細やかな診療をしています。

医師が患者さんから元気をもらうことが多いのも小児科の特徴です。病気で大変だった子どもたちが、元気になって笑顔をみせてくれる時、大きな喜びを感じます。大変なことがあっても忘れさせてくれるパワーがあります。もちろん、どの診療科においてもそのような側面はあるだろうと思いますが、子どもたちには何ものにも代えられない魅力があります。

小児科の診察室や処置室にはアンパンマンやマリオの絵が貼ってあったり、四季折々のイベントの飾り付けがされていたりします。このような細やかなことでも、子どもたちの苦痛の軽減に繋がると小児科医は信じています。また、そのような気持ちを大切にしていきたいと考えています。実際、多くの子ども病院では内装全体が子どもの癒やしに繋がるように作られています。当院も6年後に移転をする予定ですので、大学病院といえども新しい小児病棟は優しく子どもたちを包み込むような他の病棟とは違う内装にできればと考えています。臨床実習で小児科に配属される学生さんにも、このような観点が小児科では重要であることを日々伝えています。「ばいばい」とか「いないないばー」とかを普通に子どもたちにやってしまうのが小児科医です。

大学の使命として研究も重要です。ただし、当科の研究は単独に成り立つものではなく、常に診療と表裏一体でありリサーチマインドを持って診療にあたり、そこから生じた問題や疑問を解決する研究を推進しています。

今後、沖縄県の小児医療ならびに琉球大学のさらなる発展のため医局員一同力を合わせ頑張っていきますので、ご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

輝くスタッフ紹介1

「聴覚障がい児(者)とそのご家族の支えに」



与座 要

言語聴覚士 (ST)

耳鼻咽喉科で言語聴覚士 (ST) として勤務しています与座 要です。当院の言語聴覚士は他にリハビリテーション部と歯科口腔外科にも在籍していますが、耳鼻咽喉科では聴覚・音声・嚥下に関する検査と(リ)ハビリテーションを専門にしていて、主に私は聴覚分野を担当しています。

聴覚分野の医療や技術は日々進展しており、昔に比べ補聴器の性能も格段に良くなっています。しかし、補聴器を装用しても聞こえに問題のない人と同じように聞こえるわけではなく、呼びかけに気付きにくい場面も多々あり、誤解を生んだり理解されにくい障がいと言われています。特に小児の場合は、情報不足から学力や知識の低下につながり、社会性や情緒面での未熟さから心理面などに大きく影響を及ぼします。そのため、近年 出生後まもなく「新生児聴覚スクリーニング検査」を行い、早期から補聴器を装用し療育を開始する事が多くなっています。沖縄でも、出生早期から補聴器装用や療育を開始した事で地域社会へ参加する機会が増え、保育(教育)や福祉など他職種との連携が重要となっていました。現在私は県と協力し、連携の中心となるセンターの体制作りに取り組んでいます。センターを立ち上げる事で、本児(人)やご家族を多方面からトータル的に支えていく事が出来ると期待しています。

今後も私一人では難しくても、医師や他の職種と協力し、聴覚障がい児(者)やご家族が社会との壁を感じる事が少なくなるよう、頑張っていきたいと思います。

「患者さんに安心・安全な

手術看護の提供を目指して」



謝名堂 昌人

手術看護認定看護師

こんにちは。手術看護認定看護師の謝名堂昌人です。私が認定看護師としての活動を始めて4年目になりますが、日々スタッフと共に奮闘中です。

患者さんにとって手術は、大小関わらず身体的・社会的・精神的ストレスや侵襲となります。私たち手術室看護師は、患者さんが安心安全な手術が受けられるよう診療科医師、麻酔科医師、コメディカルスタッフと共にチーム医療を実践しています。更に、手術室での看護にとどまらず、病棟に出向いての術前術後訪問を実施し、患者さんとコミュニケーションを図り、寄り添った看護が実践できるよう取り組んでおります。現在当院では、ハイブリット手術やロボット支援下手術をはじめ様々な高難度医療手術が行われています。昨年度は、手術用手袋のラテックスフリー化に取り組み、患者さんや医療従事者のラテックスアレルギー対策が向上しました。また、新たな術式の確立に取り組むことや新人看護師をはじめ、スタッフ教育に日々努力し、手術看護の質の向上に努めています。

今後も、患者さんの安心安全な手術看護の提供を目指して日々、努力したいと思っています。手術看護に関する相談があれば、いつでもお声を掛けて下さい。

輝くスタッフ紹介3

リハビリテーション部 『先進医療を支えるリハビリテーションを！』



南部 路治

リハビリテーション部技士長

リハビリテーション部技士長の南部路治です。北海道札幌市の出身で、様々の御縁があり琉球大学に来て9年目となります。平成28年4月より技士長職を拝命し、今年で4年目になりました。今後とも宜しくお願いします。

さて、当部署は令和元年5月より32名(PT19名、OT8名、ST4名、事務官1名)体制になったことに加えて、4月より大屋教授が新部長となり、病院長肝いりの部署となりました。先進医療を支えるリハビリテーションの提供を目標に、4つのチーム(心大血管・運動器・脳血管・呼吸器/がん)に分かれ、ICU・一般病棟から早期離床や早期リハビリテーション介入を進めています。さらに、院内の診療科医師や看護師、他職種スタッフとの顔の見える関係だけではなく、後方支援病院や地域事業所のスタッフ等とも、退院後シームレスなリハビリテーションを提供できるよう、合同カンファレンスや勉強会等も実施しています。

また、当部署のスタッフには大学院進学をすすめ、現在では医学修士修了者が5名、さらに博士過程2名、修士過程4名が在籍し、執筆(原著・寄稿論文)や学会発表で多数のスタッフが活動しています。今後とも県内のリハビリテーション専門職に対して、研究・教育の分野で幅広く活躍できる人材を育てていけるよう、大学病院で担っていきたいと考えています。

特集コーナー ぎのわんシティ FMより1 <沖縄県の脳卒中の現状>



崎間 洋邦

第三内科

脳卒中を大きく分類すると、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の3つにわけられます。

沖縄県の脳卒中の発症数は脳梗塞を中心に増えています。沖縄県医師会を中心とした「脳卒中地域連携パス」の解析結果では、沖縄県では年間3千人余の新規発症者がいるとみられています。男性が6割、女性が4割で男性が多い状況です。平成26年度のデータになりますが、県内21病院のDPCデータをみると、その中でも脳梗塞が6割、脳出血が3割、クモ膜下出血が1割となっています。『脳卒中データバンク2015』による全国データと比較すると、全国では脳梗塞が7割を超えて脳出血は2割程度です。このことから、沖縄では脳梗塞よりも脳出血の割合が多くなっているのがわかります。沖縄県の脳出血患者を年代ごとにみてみると、40代、50代で非常に多くなっています。脳出血の主な原因として高血圧が挙げられ、沖縄県の脳卒中予防においては、若中年者の高血圧対策が特に重要なと考えられます。

特集コーナー ぎのわんシティ FM より 2 更年期障害



大石 杉子

産科婦人科

日本人の平均閉経年齢は 50 歳で閉経前後の 5 年間を更年期と呼び、この期間に現れる様々な症状の中で、他の病気に伴わないものを更年期症状と呼び、その中でも症状が重く日常生活に支障を来すものを更年期障害と呼びます。

原因はエストロゲンの低下、年齢に伴う体の変化と精神・心理的な要因、社会文化的な環境因子が複合的に影響していると考えられています。更年期障害の症状は①自律神経失調症状(のぼせ、発汗、冷え症、動悸など)、②精神症状(イライラ、怒りっぽいなど)、③その他の症状(関節痛、嘔気、食欲不振、頻尿、外陰部の不快感など)多彩な症状が挙げられます。

治療としては特にのぼせや発汗などの症状にホルモン補充療法が有効とされています。女性ホルモンの薬剤には内服、パッチ、ジェルなど様々な形状があり個人に合わせて選んでいきます。また漢方薬は生薬を組み合わせることにより更年期特有の体調の乱れを回復させる働きを持ちます。婦人科三大処方と言われる当帰芍薬散、加味逍遙散、桂枝茯苓丸などが用いられます。また大豆イソフラボンや大豆イソフラボンの一種ダイゼインの腸内細菌分解産物であるエクオールなども症状改善が報告されています。精神症状が中心の場合は精神科薬が使用されることもあります。いずれ更年期にみられる症状は軽快していきますが、つらい時期には我慢せずにお薬に頼っても良いのではないでしょうか。

ボランティアの紹介

長年ご尽力された古堅幸雄氏へ 感謝状の贈呈を行いました。



平成 31 年 3 月 27 日に、平成 15 年から本院の看護支援などのボランティアとして活躍された古堅氏が、ボランティア活動を終了することとなりました。

古堅氏に対する永年の功績を称え、また、感謝の意を込め、藤田病院長から感謝状を贈呈いたしました。

古堅さん、長い間、琉球大学医学部附属病院を支えていただき、誠にありがとうございました。(医学部総務課)



専門外来診療日割表

(受付時間 午前8時30分～午前11時：予約がある場合は、その限りではありません。) 平成31年4月1日現在

診療科	専門外来	月	火	水	木	金	備考
第一内科	感染症内科	●	●		●	●	新患は要紹介状、要予約（医療機関からの申込みに限る） （院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約）
	呼吸器内科	●	●		●	●	新患は要紹介状、要予約（医療機関からの申込みに限る） 肺腫瘍：火・木曜日
	消化器内科（消化管）	●	●		●	●	新患は要紹介状、要予約（医療機関からの申込みに限る） （院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約）
	“（肝臓）	●	●		●	●	新患は要紹介状、要予約（医療機関からの申込みに限る） （院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約）
	“（胆道・膵臓）	●					新患は要紹介状、要予約（医療機関からの申込みに限る） （院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約）
第二内科	膠原病・リウマチ内科		●	●			新患は要紹介状、院外は要予約（医療機関からの申込みに限る） （院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約）
	血液内科（骨髄移植外来含む）		●	●		●	
	成人T細胞白血病 リンパ腫(ATL)外来		●			●	
	肥満症（生活習慣病）		●	●		●	
	糖尿病・代謝内科	●	●	●		●	糖尿病外来は専用フォーム有 (月曜日は、院内入院糖尿病患者の紹介のみ)
	インスリンポンプ外来(CSII/SAP)	●	●	●		●	
	内分泌内科	●	●	●		●	
	骨粗鬆症・男性更年期(LOH)		●	●		●	
第三内科	女性医師による女性外来	●		●		●	
	脳神経内科	●		●	●		新患は要紹介状、要予約（医療機関からの申込みに限る） （院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約）
	高血圧・腎臓内科	●		●	●	●	
循環器科	高齢内科		●	●		●	新患は要紹介状、要予約（医療機関からの申込みに限る） （院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約）
	循環器内科	●		●	●		
第一外科	上部消化管外科	●		●			新患は要紹介状、要予約（医療機関からの申込みに限る） （院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約）
	下部消化管・肛門外科	●		●	●		
	肝胆脾外科	●		●			新患は要紹介状、要予約（医療機関からの申込みに限る） （院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約） (乳幼児、学校健診も含む)
	乳腺・甲状腺外科	●		●			
	小児外科	●		●			小児外科は午後のみ
第二外科	呼吸器外科		●		●		新患は要紹介状 呼吸器外科：院内紹介は事前に電話相談
	心臓血管外科		●		●		
	ステント外来		●		●		
	血管外科		●		●	●	血管外科：原則要予約（医療福祉支援センター・内線1371で予約） 木曜日は、再来予約のみ
脳神経外科	一般・腫瘍	●		●		●	新患は要紹介状、要予約（医療機関からの申込みに限る）
	脳血管障害	●		●		●	他院・他科からの紹介・予約患者は10時～11時に受付
	新患・再来	●		●		●	院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約 院内からの紹介は脳外科外来受付（月・水・金）内線1307で予約
	神経心理	●		●		●	緊急を要する患者は医局1171または病棟3801へ連絡し当日の当直（担当医）が対応します。
	ニューロリハビリ	●		●		●	
整形外科	手外科	●		●		●	新患は要紹介状、要予約（医療機関からの申込みに限る） (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約) ※手外科外来は、午前のみ ※水曜日のリウマチ外来は、午後予約のみ
	リウマチ	●		●		●	
	骨・軟部腫瘍		●		●		
	脊椎・脊髄	●		●		●	
	股関節		●		●		
	膝関節（スポーツ）	●		●			※膝関節（スポーツ）は午後のみ
	肩関節（スポーツ）		●		●		
形成外科	骨粗鬆症	●		●			※乳児股関節の精密検査は要予約 整形外来内線1301で予約
	小児整形		●		●		
産科婦人科	新患・一般再来		●		●		新患は要紹介状 ・眼瞼下垂は、火曜日 ・リンパ浮腫は、木曜日
	新患	●		●		●	【婦人科・生殖不妊・内分泌・骨粗鬆症】
	産科	●		●		●	新患は要紹介状・要予約（院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約）
	婦人科	●	●	●	●	●	【産科】紹介状有りが望ましいが、科の特殊性として紹介状なしでも診察します。
	生殖不妊・内分泌・骨粗鬆症	●		●		●	※火曜日・木曜日：予約再来のみ
小児科	新患・一般再来	●		●	●	●	新患は要紹介状、要予約（医療機関からの申込みに限る） (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約)
	腎臓	●		●			
	アレルギー	●					
	内分泌		●		●		
	遺伝・先天代謝異常		●				小児循環器専門医は不在
	神経	●			●		
	新生児	●			●		
皮膚科	血液（移植外来）		●		●		
	膠原病	●			●		
	皮膚科		●		●	●	新患は要紹介状
	皮膚外科		●		●	●	
腎泌尿器外科	乾癬		●		●		
	強皮症・皮膚筋炎		●		●	●	
	腎泌尿器外科	●	●		●	●	新患は要紹介状、要予約（医療機関からの申込みに限る） (院外からの紹介は、医療福祉支援センター・内線1371で予約) (乳幼児、学校健診も含む)
	再来	●	●		●	●	
	小児泌尿器外科	●					小児泌尿器外来：月曜日午後（予約再来のみ） “：金曜日午前（新患のみ）
	腎移植外来（午前新患）	●					
	腎移植外来（午後再来）	●	●				腎移植外来：午前は新患のみ、午後は再来
耳鼻咽喉科	新患	●		●	●		新患は要紹介状
	甲状腺・頭頸部腫瘍	●		●	●		院内紹介は、電子カルテ上の紹介枠での予約必要
	鼻副鼻腔・アレルギー	●		●	●		
	中耳炎・難聴・めまい・顔面神経	●		●	●		
	人工内耳		●		●		
	幼児難聴・補聴器	●		●	●		

(受付時間 午前8時30分～午前11時：予約がある場合は、その限りではありません。) 平成31年4月1日現在

耳鼻咽喉科	口腔咽頭・唾液腺	●		●	●	アレルギー・免疫治療外来：予約再来のみ
	音声・嚥下	●		●	●	
	頸部外傷	●		●	●	
	アレルギー・免疫治療外来			●		
眼科	緑内障	●		●		
	小児眼			●		
	網膜硝子体		●		●	
	角膜		●			
精神科神経科	神経・腫瘍・ぶどう膜	●		●		新患は予約制 (院外からの紹介は医療福祉支援センター・内線1371で予約) (医療機関からの申込みに限る) 「光トボグラフィ外来」の予約、申込みは紹介元医療機関から 医療福祉支援センターFax(098-895-1498)にて
	新患	●		●	●	
	一般再来	●		●	●	
	児童・思春期外来	●				
認知症疾患医療センター	光トボグラフィー外来	●	●	●	●	新患は要紹介状 原則予約制、予約は認知症疾患医療センター：895-1765
	睡眠外来				●	
	もの忘れ診断外来		●		●	
	新患					
放射線科	放射線診断・IVR			●	●	新患は要紹介状、要予約（医療機関からの申込みに限る） (院外からの紹介は医療福祉支援センター内線1371で予約) 他院画像読影依頼は、放射線科医のいない医療機関の取り込み画像のみ可（フィルムは不可） ※月曜日は緩和治療中心。要事前連絡、院内紹介のみ (連絡先：①4255 ②4571 ③4862) 重粒子線治療相談外来は水曜日のみ
	CTガイド下・PVP			●	●	
	甲状腺・RI			●		
	放射線治療	●	●	●	●	
麻酔科	麻酔科	●		●	●	新患は要予約（医療機関からの申込みに限る） (院外からの紹介は医療福祉支援センター内線1371で予約)
	ペインクリニック	●		●	●	
	新患・一般外来	●	●	●	●	
	口唇・口蓋裂	●				
歯科口腔外科	顎変形症	●				新患は要紹介状 新患・一般外来：月～木曜日
	腫瘍	●	●			
	顎関節症				●	
	外傷				●	
リハビリテーション部	口腔ケアセンター	●	●	●	●	・リハ新患は、月～金（月曜日は検査優先・金曜日は要電話） リハ対象者は、入院患者のみ。以外は電話で要相談。 ・痙攣治療外来：第1・3金曜日の午後（院内紹介のみ） ・心大血管リハ新患は、院内入院患者のみ。（月～金）
	リハビリテーション科	●	●	●	●	
	心大血管リハ	●	●	●	●	
	高気圧治療部	●	●	●	●	
血液浄化療法部	高気圧治療部	●	●	●	●	新患は要紹介状・要連絡（内線3290・4732） 土曜日、祝日通常体制 夜間・日曜日はオンコール体制
	血液浄化療法部	●	●	●	●	
	地域医療部	●	●	●	●	
	総合診療科部門	●	●	●	●	
総合診療センター	禁煙外来		●	●		火・水・金曜日の午前中・予約制 ※当院通院中の外来患者のみ 第3金曜日の午後のみ、※事前予約が望ましい 火・金曜日の午後のみ（インフルエンザワクチンを除く） 予約制、予約は総合診療センター・内線1310で予約 (予約受付時間：月～金曜日の14時～16時まで)
	漢方外来				●	
	ワクチン外来 (感染対策室)		●			
	緩和ケア外来（身の緩和部門）	●	●	●	●	
がんセンター	緩和ケア外来（精の緩和部門）	●	●	●	●	新患は要紹介状（火・木曜日は予約制）
	がん看護外来	●	●	●	●	月・火・木・金曜日（12:00～16:00）水曜日（12:00～14:00） 内線4766で予約
救急部	救急部	24	時間	診療		

本院の理念及び基本方針

理念

病める人の立場に立った、質の高い医療を提供するとともに、国際性豊かな医療人を育成する。

基本方針

- 生命の尊厳を重んじた全人的医療の実践
- 地域における保健・医療・福祉の向上に対する貢献と関係機関との連携
- 先端医療技術の開発・応用・評価
- 国際性豊かな医療人の育成

患者さんの権利と責務について
琉球大学医学部附属病院では、患者さんを中心とした「安全・安心・思いやり」に基づくより良い医療を目指しております。患者さんとの深い信頼関係の上に成立し医療の大切さを十分に理解するとともに、患者さんには一人一人に次のような権利と責務があることを確認いたします。

●患者さんの権利●

- あなたは、どんな場合でも、一人の人間として大切に扱われる権利があります。
- あなたは、どのような境遇、環境であっても、専門家による平等で良質な医療を受ける権利があります。
- あなたは、病のことや治療について十分に教えてもらう権利があります。
- あなたは、治療について意見を述べる権利と選択できる権利があります。
- あなたは、あなたの話したこと、病気、身体について、知られたくないことを守られる権利があります。

●患者さんの責務●

- 最善かつ適切な診療を行なうために、あなた自身の健康状態についてできるだけ正確に伝えてください。
- 主治医や担当医の治療や退院計画に主体的に取組み協力してください。
- すべての患者さんが適切な医療を受けるように、病院の規則に従い、医療の妨げとなるないように協力してください。特に攻撃的な態度や暴言、乱暴な行為は謹み、施設の所有物を大切に使うようにしてください。

平成22年8月制定 平成29年2月13日一部改正

本院までの交通機関



附属病院
ホームページが
携帯サイトからも
閲覧できます。

携帯用QRコード
au docomo SoftBank

ボランティア募集

本院では、一般の方からの病院ボランティア(外来ロビーでの案内・補助等)を広く募集しております。
空いている時間を利用して、一緒に参加してみませんか？
まずはお気軽にご連絡ください。
【連絡先】総務課 (098-895-3331 (内線: 1006))

琉球大学医学部附属病院

<http://www.hosp.u-ryukyu.ac.jp/>

電話(098)895-3331(代表)

医療福祉支援センター(内線1371)

〒903-0215 沖縄県西原町字上原207番地

HOT LINE